令和６年度　横浜市民スポーツ意識調査報告書　概要版

Ⅰ　調査概要

1　目的　　国の「スポーツ基本計画」を参考に策定した「横浜市スポーツ推進計画」における「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進に向けて、運動・スポーツの実施率等、横浜市における現状を把握するため、市民を対象としたスポーツ意識調査を実施した。また、その結果を活かし、本市スポーツ施策における各種事業の現状と課題について考察し、課題解決に向けた新たな政策立案等につなげていく。

2　対象者　（1）横浜市民スポーツ意識調査①
横浜市に居住する満 18 歳以上の調査機関登録者男女 1,997 人
（2）横浜市民スポーツ意識調査②（障害のある方を対象とした調査）
次のいずれかを満たす調査機関登録者合わせて 200 人
ア　横浜市に居住する満 18 歳以上の障害のある方本人
イ　横浜市に居住する満 18 歳以上の障害のある方と同居している家族（代理回答）
※障害のある方が複数人いる場合は、最も年齢の高い方を対象とする

3　抽出方法　（1）住民基本台帳登録者（令和６年３月末現在）の性別・年代・居住区の構成比率を基に市全体の縮図となるようサンプル数を割付し、調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
（2）調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出

4　調査方法　インターネットによるアンケート調査

5　調査期間　令和6年 11 月 22 日(金)～11 月 29 日(金)

6　回収状況　（1）有効回答数：2,226 件（ウェイトバック集計後 1,997 件）　（2）有効回答数：200 件
※（1）は、各区の人口構成比と調査設計のサンプルの割当て件数（1,997）でウェイトバック集計を行った。
※表中に複数回答の記載がある設問は、比率の合計が 100%にならないことがある。
※回答比率は、全て「n」を基準とした百分率で表し、小数第２位を四捨五入している。複数項目を合計した数値についてはローデータの合計値を四捨五入しており、個別の数値の合計値とは一致しない場合がある。

【第３期横浜市スポーツ推進計画における指標（抜粋）】

指標	目標値（令和８年度）	令和６年度（今回）	令和５年度
成人の週に１回以上のスポーツ実施率	70%以上	53.0%	49.3%
成人の１年に一度以上のスポーツ実施率	100%に近づける	79.7%	74.8%
スポーツが好きな人の割合	75%以上	66.3%	62.7%
働く世代・子育て世代の週１回以上のスポーツ実施率	60%以上	48.4%	42.5%
障害者の週１回以上のスポーツ実施率	65%以上	40.0%	39.3%
障害者の１年に一度以上のスポーツ実施率	80%以上	61.5%	52.6%
スポーツボランティア参加率	10%以上	8.3%	5.6%
市内でのスポーツイベント直接観戦率	30%以上	35.9%	24.1%
横浜市はスポーツが盛んであると思う市民の割合	70%以上	58.0%	51.8%

Ⅱ　結果概要

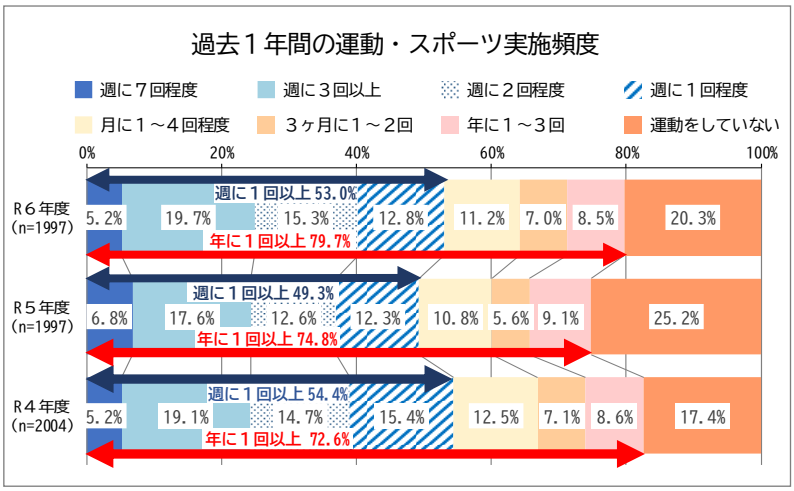
「する」スポーツ

●「週に１回以上」の運動・スポーツ実施率は 53.0%

令和５年度の 49.3%から 3.7 ポイント増、横浜市スポーツ推進計画の目標（以下、市の目標）（70%以上）には 17.0 ポイント及ばなかった。

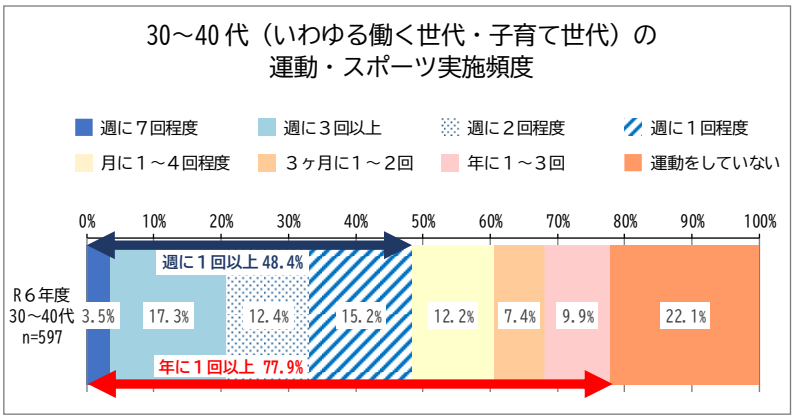
●「１年に一度以上」の運動・スポーツ実施率は 79.7%

令和５年度の 74.8%から 4.9 ポイント増、市の目標（100%に近づける）には 20.3 ポイント及ばなかった。



●30～40 代（いわゆる働く世代・子育て世代）の「週に１回以上」のスポーツ実施率は 48.4%

令和５年度の 42.5%から 5.9 ポイント増、市の目標（60%以上）には 11.6 ポイント及ばなかったが、全体と比較して前年度からの伸び率が高かった。

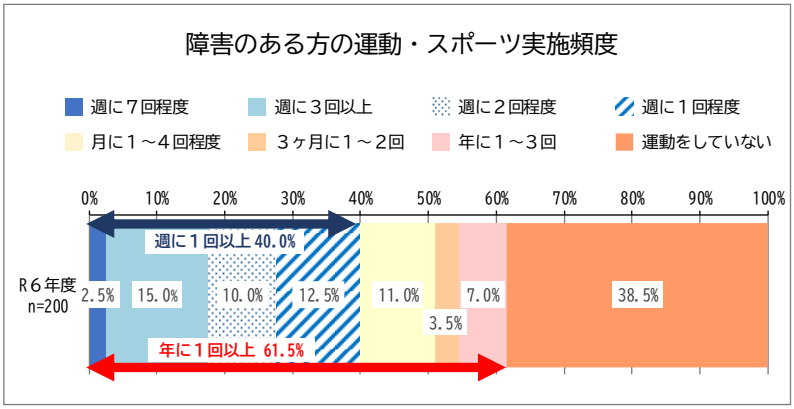


●障害のある方の「週に１回以上」のスポーツ実施率は 40.0%

令和５年度の 39.3%から 0.7 ポイント増、市の目標（65%以上）には 25.0 ポイント及ばなかった。

●障害のある方の「1 年に一度以上」の運動・スポーツ実施率は 61.5%

令和５年度の 52.6%から 8.9 ポイント増、市の目標（80%以上）には 18.5 ポイント及ばなかった。

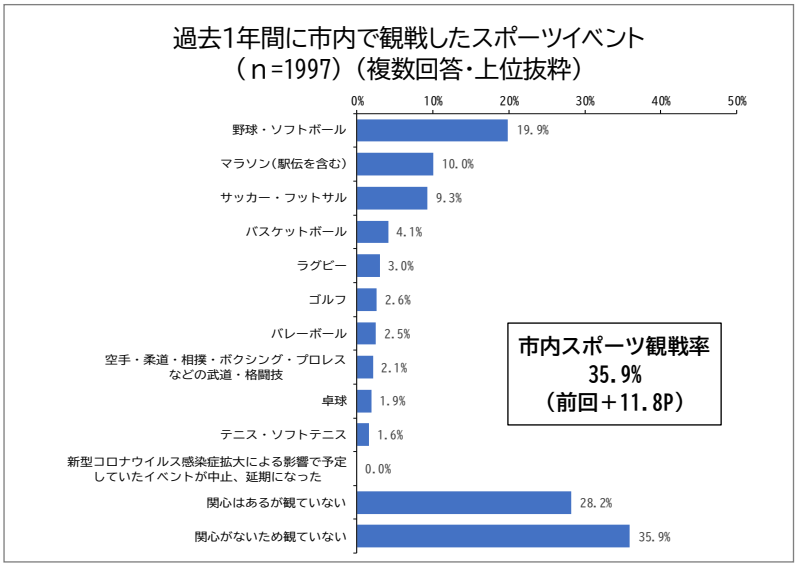


「みる」スポーツ

●過去１年間の市内での観戦率は 35.9%

市内でのスポーツイベント直接観戦率（プロスポーツやトップアスリートが参加するものに限らない）は 35.9%となった。令和５年度の 24.1%から 11.8 ポイント増、市の目標（30%以上）を 5.9 ポイント上回った。

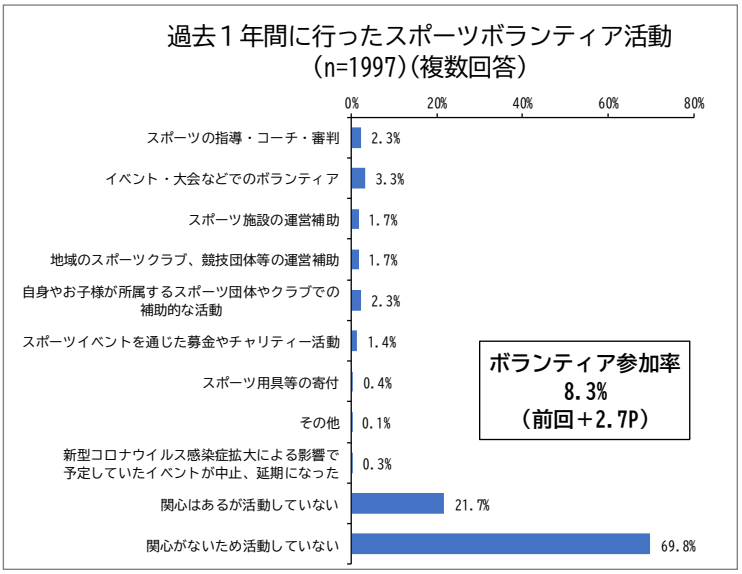
なお、種目については、「野球・ソフトボール」が 19.9%で１位、次いで「マラソン(駅伝を含む)」が 10.0%という結果だった。



ささえる」スポーツ

●過去１年間に行ったスポーツボランティア活動への参加率は 8.3%

令和５年度の 5.6%から 2.7 ポイント増、市の目標（10%以上）には 1.7 ポイント及ばなかった。

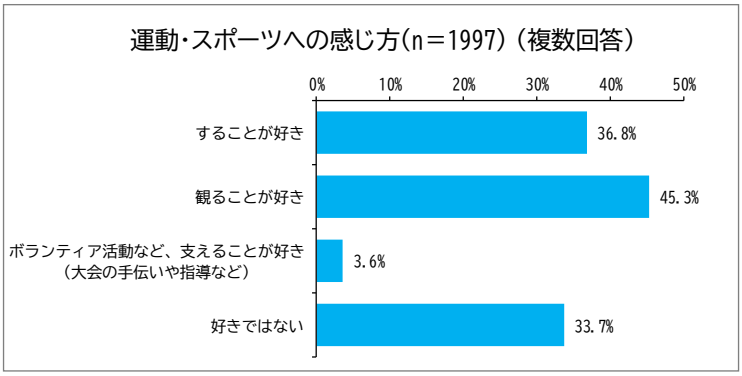


横浜市のスポーツについて

●スポーツが好きな人の割合は 66.3%

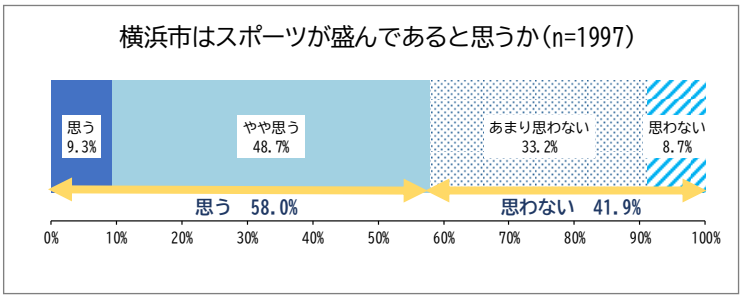
スポーツへの感じ方は、「観ることが好き」（45.3%）が最も高く、次いで「することが好き」（36.8%）となった。

する・みる・ささえるのいずれかを好きと回答した割合は 66.3%で、令和５年度の 62.7%より 3.6 ポイント増、市の目標（75%以上）には 8.7 ポイント及ばなかった。



●横浜市はスポーツが盛んであると思う人の割合は 58.0%

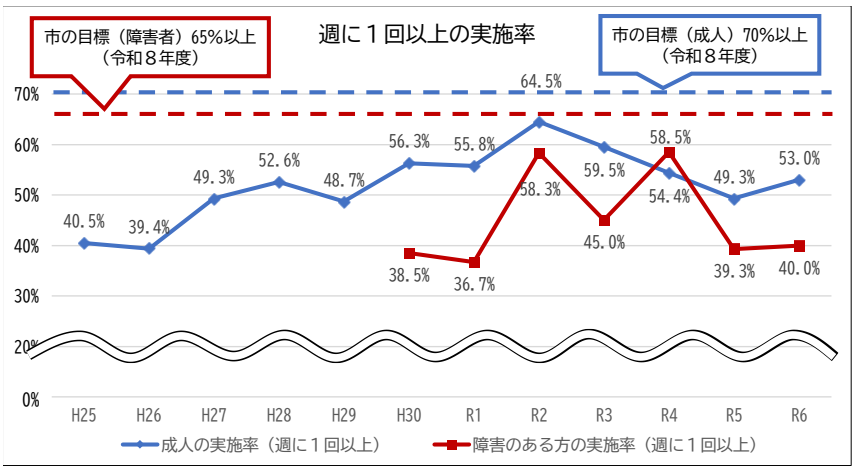
横浜市はスポーツが盛んであると思う（「思う」「やや思う」計）の割合は 58.0%となり、令和５年度の 51.8%から 6.2 ポイント増、市の目標（70%以上）には 12.0 ポイント及ばなかった。



Ⅲ　スポーツ実施率の変化

成人の週に１回以上のスポーツ実施率は、平成 26 年度の 39.4%から増加傾向にある。コロナ禍で令和２年度から令和５年度にかけて減少したが、令和６年度は増加に転じている。

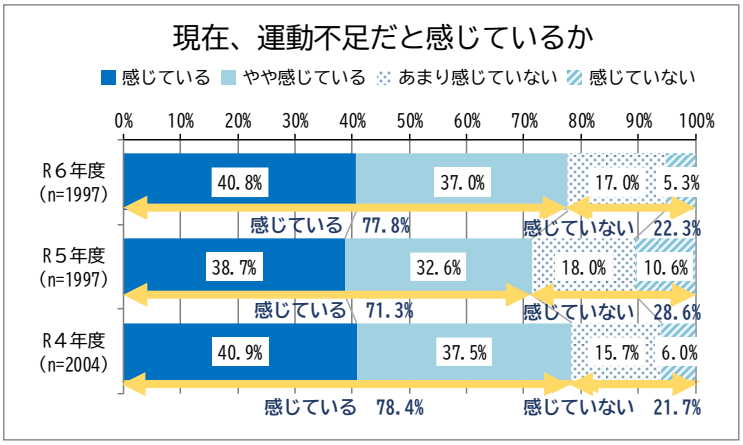
障害のある方については、平成 30 年度から調査を始めたが、数値の上下が大きく、何らかの傾向はみられなかった。

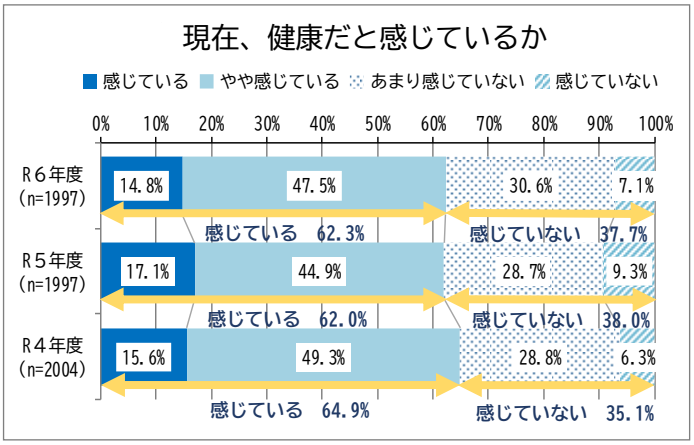


Ⅳ　運動・スポーツ実施に対する意識の変化

意識の変化としては、「運動不足と感じている」層（「感じている」「やや感じている」の計）は 77.8%となった。令和５年度の 71.3%に比べ、6.5 ポイント増となっており、運動不足と感じている人の割合が増えている。

一方、「健康だと感じている」層（「感じている」「やや感じている」の計）は 62.3%で、令和５年度の 62.0%に比べ、0.3 ポイント増となっている。





Ⅴ　まとめ

令和６年度は、全ての指標において令和５年度を上回った。

特に、市内でのスポーツイベント直接観戦率は 11.8 ポイント上昇し、令和８年度の市の目標値を上回った。観戦した種目は野球・ソフトボールが最も多く、次いでマラソン（駅伝を含む）、サッカー・フットサルと続いており、トップスポーツチームとの連携や、大規模スポーツイベントの誘致・開催支援の取組の成果が表れていると考えられる。

「成人の週に１回以上のスポーツ実施率」は 3.7 ポイント増加しているが、一方で「運動不足と感じている」層が 6.5 ポイント増加しており、運動をしていても運動不足と感じている傾向も見られる。また、「いわゆる働く世代・子育て世代の週に１回以上のスポーツ実施率」が全体と比較して低い傾向が続いている。

スポーツを好きな人の割合は 66.3%と 3.6 ポイント増加しており、中でも「観ることが好き」が 45.3%と最も高い。

令和８年度の市の目標を達成するには、スポーツが好きであると感じている層が実際に「する」「みる」「ささえる」活動に取り組めるような働きかけが重要である。また、週に１回以上の運動・スポーツ実施率を向上させるためには、引き続きいわゆる働く世代・子育て世代が運動しやすい環境を整えることが重要であると同時に、運動不足を感じて運動を実施した層が継続して運動できるよう運動・スポーツが健康に与える効果についての理解を高めていくことが必要であると考えられる。

Ⅵ　報告書について

報告書（PDF）は、横浜市ホームページにて公開しています。報告書では、単純集計のほか、性別、年代別、性・年代別、居住区別のクロス集計結果等も掲載しています。詳細は報告書を御参照ください。

※訂正等があった場合についても、ホームページに掲載します。

【令和６年度横浜市民スポーツ意識調査報告書　概要版】

令和７年３月
編集・発行　横浜市にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興課
045-671-3583
横浜市中区本町６丁目 50 番地の 10
https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/shinko/shinko/ishiki.html